



普段の授業をLvアップ!

「秋田の探究型授業」を紹介します

『教師が教える』ことが中心の普段の授業を『児童生徒が主体的に学ぶ』授業にするにはどうしたらよいか?と悩んでいる先生も多いと思います。その悩みの解決につながるヒントの一つとして、「秋田の探究型授業」に基づいた能代第二中学校での実践を紹介します。

「秋田の探究型授業」の基本プロセス

引用:「学校教育の指針 令和5年度の重点」
(秋田県教育委員会)



「児童生徒が主体的に学ぶ」授業にするためには、「基本プロセスの『学習の見通しをもつ』場面」で、児童生徒が自ら課題設定することができるような教師の仕掛けがポイントである」と感じています!これは、岡山県の「授業5」と共通しています。



例えば… 数学科(1年生)「正負の数」

教師: これらの図を見て、気になることはないですか?

生徒: 天気予報で見たことあるよ。

教師: 稚内は-25.2℃!寒いなあ。(+1)って何だろう?

生徒: 能代と東京の()の中はどちらもマイナスの数字になってるよ。

教師: えっ、どういうこと?

教師: 知っていること(既習事項)と違うことは何?

生徒: ※実際にはより多くの生徒の声が上がり、それを拾っています。

教師: 「℃」がついている数字とついていない数字があるよ。

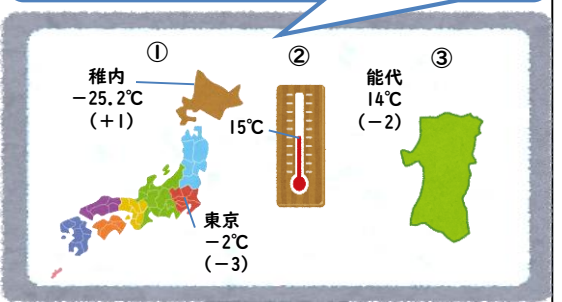
生徒: ()の中の数字は何を表しているんだろう?

教師: 「マイナス」の意味が違うのかなあ。

教師: 今日の学習課題は何にする?

生徒: 「-(マイナス)にはどんな意味があるのだろうか?」にしよう!

教師は学習内容と生活がつながる題材を見つけて提示しています!



↑電子黒板に投影された情報

※()は前日(基準)との気温差。
 ※負の数を表す負の符号「-」と、減法を表す記号「-」を混在させて提示する。



ココが Point!
この教材は、正負の数の計算につながるように、単元を見通して設定されているよ。

問題発見の仕掛けを教師が用意し、生徒の「どういうこと?」という発言に対して、中身を掘り下げる問い返しをする中で、既習事項との違いやズレに生徒自身が気付き、本時の学習課題を生徒が自分達の言葉で立てられるように工夫をしています。

能代第二中 畠山 玄 先生



「見通しをもつ場面」での教師の仕掛けは、校内研修において、**全教科の共通実践事項**となっています。他教科の授業参観からも新たな視点を学ぶことが多く、先生方は教科関係なく学んだことを取り入れながら実践を行っています。



小学校でも基本プロセスを大切にしており、小・中学校の9年間で子どもたちの学ぶ力を育てようとしています。